

◇ 平成29年度 事業報告

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

◇ 平成29年度の事業活動実績について報告致します。

1. 総括

平成29年度の事業活動は、会員が一丸となってIT業界における公益社団法人の一員であるとの矜持を持って結束し、以下の諸活動実施をとおして当初事業計画目的である地域社会の高度情報化促進に寄与することができました。

事業活動は以下の方針に沿って実施しました。

情報化に関する調査・研究・研修・広報活動等の事業を実施し、県民が情報サービスの恵沢を広く享受できる環境づくりや、情報サービス産業の健全な発展を図ることにより高度情報通信ネットワーク社会の形成を推進して地域経済の発展及び公共福祉の増進に寄与する。

この基本認識に基づき、各事業活動は、理事会、企画調査室、部会及び事務局がそれぞれ分担しながら企画を立案・実施し、その活動成果を本会会員並びに地域社会に提供し、地域経済の発展及び公共の福祉増進に寄与することができました。

2. 事業活動報告

下記の1室・5部会が中核となり基本方針に掲げる事業活動を実施しました。

(事業活動担当組織名)

- | | |
|-------------|--------------|
| a. 企画調査室 | d. 広報部会 |
| b. 総務福利厚生部会 | e. 教育技術部会 |
| c. 事業企画部会 | f. コンソーシアム部会 |

※当協会は平成30年2月12日に創立20周年を迎えましたが、これを記念し平成29年度中に各種記念行事を実施しましたのでその内容を以下のとおり報告します。

創立20周年の記念祝賀会は協会主催の最重要行事と位置づけ、平成30年1月の新春賀詞交歓会と併せて開催しました。

また、会員全員で祝賀し強固な団結を図る目的で平成29年度を「周年祝賀の年」とし、活動組織である「部会」に予算を配分してそれぞれの分野で記念行事を企画・実施しました。

実施した一連の【創立20周年記念事業】は下記のとおりとなります。

(創立20周年記念行事一覧)

・平成29年 9月 8日	懇親ゴルフ大会
・平成29年10月 3日	ウオークラリー大会
・平成29年10月31日	ホームページ・全面リニューアル
・平成30年 1月26日	賀詞交歓会（講演、祝賀会）
・平成30年 2月13日	チサ・ジャーナル発刊 (創立20周年記念特集号)
・平成30年 3月14日	事業承継セミナー
・平成30年 3月23日	漁業・水産業 x IT 視察ツアー

※詳細は、ホームページ、チサ・ジャーナル（広報誌）をご覧ください。

(1) 情報サービスに関する調査及び研究に関する事業

平成29年度は、次の事業を実施しました。

①情報技術研究、調査に関する事業

A. ANIA(全国地域情報産業団体連合会)が主催する全国大会、総会、賀詞交歓会、理事会、事務局長会議に参加し当協会の事業及び技術研究増進に役立てました。(4月13日、6月7日、11月9、10日、2月8日)

B. 千葉県内大学による卒業論文発表会

毎年県内理系大学の学生による卒業論文発表会を開催し、学生の勉学向上支援と、情報産業界、教育界、官公庁間の連携強化を図った事業を実施しています。本発表会は、異業間連携だけでなく同一業界である教育界内の大学間交流や参加教員間の交流にも役立っています。

平成29年度は、千葉県、千葉県地域IT化推進協議会、千葉市・千葉市科学フェスタ2017サテライトイベントの各団体の後援を得た事業となり、2月21日に開催しました。

(参加者計51名一教員10名、学生9名、官公庁2名、企業30名)

なお、発表校は以下のとおりです。(学校数・発表者数：5校、13名)

千葉工業大学、東京情報大学、東邦大学、日本大学、船橋情報
ビジネス専門学校

発表会では専門分野の研究成果が発表され、発表内容に対する質疑やコ

メントが他校の指導教官や学生から数多く出ました。

発表内容の中には企業の関心を集めたものもあり有意義な発表会となりました。会場からは、当日の発表者のプレゼン技術が極めて向上していると賞賛の声が多くあがり、発表者全員に当協会会長からその栄誉を称えた表彰状が授与されました。

(2) 情報化に関する普及啓発及び促進に関する事業

平成29年度は次の事業を実施しました。

①情報システムの普及推進支援事業

A. ちばIT利活用フォーラム(11月15日)

千葉県地域IT化推進協議会との共催で開催し、官公庁、当協会会員企業、会員外企業等の方々総勢102名が参加されました。

当日は、「IoTで千葉を元気に！」というテーマを設け、以下の講演が行われました。

a. 地域のICT活用、小さく始めて大きくひろげよう

総務省地域情報化アドバイザー 会津大学産業イノベーションセンター 准教授 藤井 靖史 氏

b. ドローンとICT、IOTおよび将来展望

(株)自律制御システム研究所
代表取締役 野波 健蔵 氏

c. 日立におけるIOTへの取り組み

(株)日立システムズ公共事業グループ
主席コンサルタント 前田 みゆき 氏

B. 社会人向けインターネット講習会

本年も例年開催している「一般社会人向けのインターネット講習会」を11月8～10日と15～17日に亘って開催しました。

会場は、千葉市(2回)、船橋市(3回)、八千代市(1回)の3か所で延べ6回の開催となりました。

千葉市はNTTエム・ベイポイント幕張、船橋市は船橋情報ビジネス専門学校、八千代市はTPSキャリアカレッジ八千代勝田台校の会場をお借りして開催しました。多数の応募をいただきましたが、機器台数の制限等があり、募集人員は千葉会場各20名、船橋会場各24名、八千代会場24名の合計136名とさせていただきました。

② 情報システム活用啓蒙推進事業

A. 講演会・セミナー等の開催

(ア) 「賀詞交歓会セミナー」の開催

賀詞交歓会開催に併せてセミナーを開催しました。

当日は、株式会社 hapi-robo st (ハピロボ エスティ) 代表取締役社長 富田直美氏を講師にお呼びし、

「AI、ロボット、IoT を社会に活かす。～人がより幸せになるような未来を創る会社の使命とは?～」をテーマにご講演いただきました。講師の実体験を基に語られる熱意の籠った講演に参加者は熱心に聞き入っていました。内容の詳細は、当協会が発行している CHISA ジャーナル第38号、またはホーム・ページをご覧ください。

(参加者数：168名)

B. 広報活動

(ア) 広報誌「CHISAジャーナル」

第37号(夏号)と第38号(新年号)を発刊しました。

新年号の第38号は、当協会の「創立20周年を記念した特集号」としました。

表紙に以前の賀詞交歓会会場風景を配し、今回の創立20周年賀詞交歓会祝賀会と対比させる構図を採用しています。

表紙の生き活きとした会員の力強い雰囲気は現在迄継承されていることが読み取れるのでは・・・と自負しています。

裏表紙の「知っ得★シリーズ」も好評を博し継続掲載しています。

ご覧いただいていない方は、是非ご一読いただきたいと思います。

(本内容は、当協会HPでもご覧いただけます。)

(イ) 協会活動報告「協会だより」

当協会は、協会活動を会員及びそれ以外の方々にも知っていただく目的で、標記報告書を定期的に作成しホームページに掲載して発信しています。

協会だよりは、理事会開催の都度、同会の審議内容を報告する他、同時に、協会組織である各部会の活動状況をお知らせしています。

平成29年度の発信回数は5回となりました。

(3) 情報サービスの人材育成及び確保に関する事業

平成29年度は次の事業を実施しました。

①情報サービスの人材育成に関する事業

A. CHISA実践型新人社員研修（実践型人材養成システム）の実施

新人社員を対象とした研修で、「CHISA実践型新人研修実行委員会」が中心となって教育訓練機関と連携し実施しています。

本事業は10年の実績があり、研修受講生間の同期意識が強化され、他企業にも友人ができるという副次的な効果も出ており、毎年好評を得ています。平成29年度の受講者数は18社、80名でした。

B. 新技術調査研究会の活動

会員企業若手技術者の育成と若手の企業間交流を主目的とした活動です。年度初めにチーム編成を行い、新技術の動向に関する研究テーマに基づき1年間共同研究を続け、年度末に開催する「成果発表会」で発表するという事業を展開しています。

本年度は、前述した「千葉県内大学による卒業論文発表会」と同じく、2月21日に同一場所で開催しました。

本活動は、平成29年度で15年目となり発表者は5チーム（11社、19名）、参加者は47名となりました。

平成29年度の研究テーマは、以下のとおりでした。

- a. Aチーム：クラウド
- b. Bチーム：AR／VR
- c. Cチーム：AI
- d. Dチーム：災害とIT
- e. Eチーム：ブロックチェーン

業務を抱えながら忙しい時間を割いて研究調査した成果が実った素晴らしい発表が行われました。本年度から導入された評価制度に基づき、Eチームの各人に「最優秀賞」、その他チームの各人に「優秀賞」が当協会会長から授与されました。

なお、本発表会は午前中に実施されましたが、午後から開催された卒業論文発表会に本発表会参加者が参加しその内容に感銘を受けていました。また、夕方開催された合同懇親会で新技術調査研究会の若手社員と卒業論文発表会の学生や教官と会員企業間で交流を深めました。

C. 技術研修会の開催

前年に引き続き、技術者育成のための研修「CHISA情報通信人材研

修」を技術系、業務系、管理系、ヒューマンスキル系の4分野に亘って開催し、計19コース、延べ199名の受講がありました。

当研修会は毎年好評で、若手社員を中心に技術スキルアップのため活用されています。

②情報サービスの人材確保に関する事業

A. インターンシップ

インターンシップ事業を実施し、学生の企業就労体験を支援しています。本事業は平成29年度で17年目を迎えていますが、毎年参加を希望する学生が多いため学生と会員企業間で希望内容を調整するマッチング会を開催し参加者を決定しています。

平成29年度は、6月13日のマッチング会で会員企業12社が48名の学生を受け入れ、7月中旬から9月下旬にかけてインターンシップを実施しました。

(4) 情報サービス産業の経営基盤の確立整備に関する事業

平成29年度は次の事業を実施しました。

①経営基盤の確立に関する調査、研究事業

A. 学生向け合同企業説明会の開催

学生向けの会社説明会を官公庁・他業態と共同で開催しました。

当協会会員企業の参加数は27社となり、幕張会場で第1回説明会を3月5日に実施しました。なお、当説明会は今後、4月18日、5月15日の2回、開催を予定しています。

また、参加企業は例年どおり県内理系大学の学内就職説明にも参加しましたが、年々、学校による選別が厳しくなる状況にあります。

参加した学校は、日本大学、千葉工業大、東京情報大、船橋情報ビジネス専門学校の4校でした。

②会員の福利厚生向上に関する事業

A. CHISA総合共済制度（別法人、「なのはな共済会」が運営）

なのはな共済会制度は、発足してから平成29年度で17年目を迎えますが、この間、共済会の加入者に充実した保障と各種福利厚生サービスを提供しその利便に供してきました。

組織としては別法人の形をとっていますが、共済会会員の加入条件が当協会会員とされていることから、同共済会運営委員会に参画しそのサービス充実のために積極的な支援を行っています。

(5) 情報サービス産業の振興に係る国内外との交流及び連携促進に関する事業

平成29年度は次の事業を実施しました。

なお、本年度は当協会の創立20周年にあたる年となったため、以下の7件の記念事業を実施しました。

①創立20周年記念事業

A. 懇親ゴルフ大会

記念事業と位置づけて規模を拡大し実施しました。当日は、関連団体の方々を多数お招きし総勢48名で、9月8日にキングフィールズ・ゴルフクラブで開催しました。

B. ウォークラリー大会

創立20周年を記念し復活行事として実施しました。ご家族、会社の同僚等でチーム編成していただき、チームが一丸となって楽しんでいただける内容としました。10月7日に千葉で開催しましたが、主催者が提示する問題に解答して先に進む工夫を取り入れたウォークラリーは好評で、48名にご参加いただきました。ゴール後に全員で参加した焼肉パーティーには皆さんご満悦のようでした。

C. ホームページ・全面リニューアル

創立20周年記念事業の一環として、それまで提供していた当協会のホーム・ページを全面リニューアルし平成29年10月31日から提供を開始しました。

新HPは、明るい画面構成となり文字情報だけでなく図・写真等が多用されたものとなっています。また、検索がし易くなり必要情報がどの画面からも簡単に行えるようになりました。

この他の大きな特長としては、HPの情報更新を協会事務局が担当するシステムへ変更したことにより、掲載情報の更新が素早く行えるようになったことが挙げられます。

また、当HPは、「広告掲載」をいただけるできる仕組みとしていますが、既に掲載をいただいている企業様にとっても朗報があります。

旧HPの「バナー広告」はトップ画面のみの掲載でしたが、これを全面面に掲載するように変更しましたので、この面でも広告掲載企業様にとってメリットが倍加しました。

D. 新春賀詞交歓会（創立20周年祝賀会）

新春に開催する交歓会で、毎年、会員企業、官公庁、学校、関連団体等が一堂に会して交流し、意見交換を行う場を提供すべく開催しています。当年度は、創立20周年を記念した行事と位置づけ、森田千葉県知事、熊谷千葉市長をお迎えし、多くの会員企業に皆様のご参加を得て、1月26日に盛大に開催しました。

（参加者数168名：来賓36、会員59社、1155、報道他17）

E. チサ・ジャーナル発刊（創立20周年記念特集号）

平成30年発行の新年号は、創立20周年記念特集号として作成しました。内容が充実したものに仕上がっております。本号は、会員を始め官公庁・関連団体様等にご送付済みですのでご一読をお願い致します。

（本内容は、当協会HPからもご覧いただけます。）

F. 事業承継セミナー

中小企業主の70%以上が関心を寄せるとされる「事業承継問題」について税理士資格を有する専門家を招聘し講演いただきました。

講演では、人的な後継者問題。物的には、自社株式評価方法とその節税対策を重点とした説明がされ、改めて問題の奥深さと知識の有無により節税面で大きな違いが出てくることを知ることができ、大変有意義なセミナーとなりました。（参加者11名）

G. 漁業・水産業 x IT 視察会

前回好評を博した「農業視察ツアー」に続く第2段として、今回は「漁業・水産業」を対象とした業態視察会を実施しました。

普段訪れることの少ない県水産総合研究センター、地元漁業組合での専門家のお話や鯨肉販売店等で水産業の実情を視察することができました。県の漁業の実態やIT利用状況等を把握することができ、実り多い視察会となりました。

（参加者18名）

②会員間、関連外部団体との交流・情報交換

A. 会員企業懇親会

部会等の活動組織はその内部での交流が盛んですが、部会間の交流が少ない等の理由から、会員企業間の交流を深める目的で毎年開催しており、平成29年度は10月18日に32社52名の参加を得て実施しました。

B. スポーツ大会等

前年度に引き続き、会員交流を目的としたスポーツ大会等を開催しました。実施内容は以下のとおりでした。

- a. 軟式野球大会（5月～11月、5チーム）
- b. フットサル3情産協団体対抗頂上戦（7月29日、9チーム）
- c. CHISAフットサル大会（6月10日、24チーム）

C. 「CHISA&JIET&シー・ソフトウェア3団体合同商談会」の開催

会員間の交流の絆を深め、併せて会員増強を目的としてJIET、並びにシー・ソフトウェアと共催して商談会を開催しました。3団体加盟会員に限らず多くの方々にも参加を呼びかけました。

当日は、「専門家によるセミナー」と「名刺交換会」を行い、その後の懇親会で企業間交流の絆を深めました。

※JIET：特定非営利活動法人 日本情報技術取引所の略称
（開催日） ・平成29年6月8日
（会場） ・幕張テクノガーデン会議室

D. 「公益財団法人千葉市産業振興財団開催セミナー」の後援

千葉市産業振興財団が実施するビジネスプラン発表会「第16回ベンチャー・カップCHIBA」を後援し、同財団との交流促進に努めました。

（開催日）平成29年11月29日

（会場）三井ガーデンホテル千葉（参加数）198名

E. 他県協会との交流会の開催

昨年に引き続き、東京、神奈川、埼玉、山梨、福島、茨城、千葉の情報サービス産業協会7団体で組織する「首都圏情報団体連絡協議会（略称：メトロ）」に参加し、情報交換等とおして当協会の発展に寄与しました。

なお、3月2日開催の幹部会議において、福島、茨城の参加に伴い地域が拡大したことから、当会の名称を、現行名称の頭部に「広域」を付けることが決議されました。

併せて、平成30年度は当協会と山梨がメトロ行事担当の幹事となること決定されました。

なお、平成29年度の行事は下記日程で実施されました。

- ・事務局会議開催日：6月30日、9月22日
- ・幹部会議開催日：3月2日
- ・メトロエリアグリーンゴルフ大会：10月12日

②連携促進事業

A. 首都圏情報団体ビジネス交流会 2017

毎年、標記団体に参加している東京、埼玉、神奈川、山梨、福島、茨城、千葉の情報サービス産業協会が共同して開催する企業ビジネス交流会で、各社の製品紹介・ブースでの商談会を行い、その後交流を深めるための懇親会を開催しています。

平成29年度は、10月20日に当協会に主幹事となり、千代田区の如水会館で開催しました。

(出展企業9社、参加者総数83名、内当協会36名)

③外部団体・委員会

平成29年度は下記の団体に加盟し各種の会合等に参加する他、関係団体の運営協議会に参画し活動しました。

A. 団体への加盟

- a. 情報サービス産業協会 (JISA)
- b. 全国地域情報産業団体連合会 (ANIA)
- c. 首都圏情報団体連絡協議会 (メトロ)
- d. 千葉県地域IT化推進協議会
- e. 首都圏中央連絡自動車道建設促進県民会議
- f. 千葉社会保険協会

B. 運営協議会への参加

- a. 高度職業能力開発促進センター第1回運営協議会 (6月23日)
- a. 高度職業能力開発促進センター第2回運営協議会 (12月7日)

④各種支援事業の推進

A. 先進的技術研修事業 (IoT・ビッグデータ・AI等の新たな

ICT時代のAIエンジニア育成研修)

千葉県産業振興センターの支援を受けて標記研修会を開催しました。

(受講者数: 25名 開催日: 7月25、26、8月8~10日)

B. 地域活性化事業

情報サービス産業協会の「地域経済の活性化」を図る目的に賛同し、引き続き「IT技術研修」を実施しました。

以 上